

資料館だより

発 行

高松宮記念ハンセン病資料館
〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13
電話 042-396-2909
FAX 042-396-2981
郵便振込 東京00130-7-764159
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

らい病予防法廃止記念

ハンセン病回復者の国際交流会議

人間の尊厳と共生を目指して



満員の砂防会館国際交流会議

砂防会館に七百人 「東京宣言」採択

「らい予防法廃止記念・ハンセン病回復者の国際交流会議」が、全国ハンセン病療養所入所者協議会、アイデア、藤楓協会主催、厚生省笹川記念保健協力財団後援で、六月二十日(土)午後一時より五時まで千代田区平河町の砂防会館で七百人近くが参加して開催された。

主催者である全療協・高瀬会長、アイデア・コパール会長の挨拶、藤楓協会総裁・寛仁殿下のお言葉と小泉厚生大臣、WHOの中島宏事務局長の来賓挨拶、つづいて福沢美和さんが「盲導犬とともに」をテーマに感動的な講演を行った。

テーブル討論では日本を含む八カ国の代表が熱っぽく、自国のハンセン病対策の現状報告や提言を行った。その後、全療協の神事務局長が「東京宣言」案を朗読、満場一致で採択された。多磨、栗生、駿河からもバスで療友、職員多数が参加して会場を盛上げた。

「人間の尊厳回復と自立共生を目指す」IDEAの代表たちが、世界のハンセン病対策の現状と将来への期待を協議し「東京宣言」を採択するとともに、患者・回復者の国際交流の促進をはかるために、アメリカ、インド、中国、韓国、フィリピン、エチオピア、ブルジルなどから結集した。

一九九八年六月二十日、東京において、日本のライ病予防法廃止記念事業として開催された「ハンセン病回復者の国際交流会議」において、ハンセン病患者・回復者及び一般市民は、「人間の尊厳回復と共に共生をめざして」という主題のもとに意見交換と交流をおこなった。今日ハンセン病は、有効な治療法の確立により、一般的の疾病同様・治癒する病気となつた。しかしながら、日本をはじめ世界の各国では、いまだにいわゆる偏見や社会的差別が根強く存在し、人権と尊厳が著しく阻害されているとのハンセン病患者・回復者の証言はなによりも重く受けとめられなければならない。

ハンセン病患者・回復者の辛酸を窮めた永年の闘病生活や社会から排除され、人間としての生存権をも否定された暗い歴史は、再びくり返されてはならない。

現在進められているハンセン病の啓発。患者回復者が

の経済的自立の促進。差別の撤廃及び社会における共存をめざす活動は、極めて重要であるにも拘わらずまだ緒についたばかりであることを共通の認識とする必要がある。

今から五〇年前の一九四八年十二月一〇日、国際連合第三回総会で採決された世界人権宣言は、「すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊厳と権利について平等である。」(第一条)、

二 偏見及び、あらゆる社会的差別を解消するために、さまざまな困難に直面しながらも、自らの道を切り拓いてきた勇気ある先達の努力と志を引き継ぎ、発展させるために、病気の体験者自身が重要な役割を担つて努力をすること。

三 ハンセン病回復者の国際交流会議の開催とその意義

四 ハンセン病回復者の権利及び責任を自覚し、積極的に社会と関わってい

五 各国の政府や非政府団体に対し、ハンセン病患者・回復者の尊厳の尊重と共生への努力を求める

六 世界各国の人々に、ハンセン病問題に対する理解を促すために、各国のハンセン病の歴史と回復者の体験に学ぶとともに、一層交流

七 ハンセン病についても、治療を要する人々がいなくなり、手当を必要とする障害も、克服すべき差別もなくなり、かつてこの病気を体験した人たちが市民として平等の権利と生活空間と義務を享受し、社会と共に生じるようになつてはじめて、最終的に病気の終息と勝利の宣言をすることができる

と認識し努力を続けること。以上、国際交流会議の名において宣言する。

一九九八年六月二十日「ハンセン病回復者の国際交流会議」参加者一同

八 起きた「飛兎里島の大惨事」を題材にした異色の絵画展である。

東京宣言

二 偏見及び、あらゆる社会的差別を解消するために、さまざまなもの

五 各国の政府や非政府団体に対し、ハンセン病患者・回復者の尊厳の尊重と共生への努力を求める

六 世界各国の人々に、ハンセン病問題に対する理解を促すために、各国のハンセン病の歴史と回復者の体験に学ぶとともに、一層交流

趙昌源絵画展

資料館では開館五周年記念行事の前段として、九月一日より三十日まで研修展示室において、小鹿島更正園元園長・趙昌源先生の絵画(八点)、他の展示を行う。戦後の混乱期、偏見差別から起きた「飛兎里島の大惨事」を題材にした異色の絵画展である。

IDEA・全生園で交流会 四団体と理解の話し

六月二十

一日(日)午

前十一時す

ぎ、アイデ

アの代表外

十二名の一

行は、厚生

省、藤楓協

会、笹川記

念保健協力

財団、全療

協、全生園

職員、自治

会、資料館

関係者、通

譯のボラン

ティアなど、

資料館を訪れた。

関係者多数の出迎えを受け

資料館を訪れた。

第二十一回ハンセン病医

学夏期大学講座(松尾英一)

実行委員長は、次の要領

で実施されることになった。

○期日・平成10年8月24

日(月)～8月28日(金)

○対象・医学部、歯学部、

看護学生、医師、歯科医師、

看護婦、医療福祉、医療技

術の学生、検査技師、その

他医療関係者など

○定員・四十名程度



IDEA代表との懇親会

つくつてく

れた展示品

の英訳説明

書を手渡し、

平沢運営委

員の案内で

会場を見学

して回った。

その後一

行は納骨堂

へ参拝し、

開園以来の

物故者三千

ーにおいて、交流懇親会を行なった。この懇親会には地元の細渕一男市長、細渕昭八身患連代表、河邑晶子三多摩肢障協代表、福岡寿美子あゆみの会代表なども参加し、アイデアの方たちとの交流を深めた。

◎互助会▼韓国(鄭相權=チヤン・サンゴン)各班にはそれ

つづいて一四時から一五時三十分までは、次の四班に分かれてそれぞれ交流を行なった。

◎盲人会▼エチオピア(アレガ・ゼレレク、フイリップ

・パク、チャン)各班にはそれ

ぞれ通訳や参加者も分散して出席し、話し合いを盛り上げた。

なお一行は二十三、二十四日、三班に分かれ、松丘、大島、宮古を訪問し、二十一日帰国された。

◎草創会・愛友会▼インド

(P・Kコパール)、中国(楊理合=ヤン・リーホウ)

◎宗団▼アメリカ(バーナード・

ロード)、ブラジル(ファスティーノ・ピント)

会館で展示された「アイデア展」の写真パネル十数点を七月五日(日)より三十日(木)まで、資料館研修展示室で展示することになった。

この写真は元朝日新聞のカメラマン・八重樫信之氏が撮影したもので、対象は世界各国のハンセン病患者や回復者たちである。

7月24日

ハシセシ病医学 夏期大学講座



納骨堂参拝の代表たち

「アイデア展」

国際交流会議の際、砂防

会館で展示された「アイデ

ア展」の写真パネル十数点

を七月五日(日)より三十日

(木)まで、資料館研修展示

室で展示することになった。

この写真は元朝日新聞の

カメラマン・八重樫信之氏

が撮影したもので、対象は世界各国のハンセン病患者や回復者たちである。

